

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

<p>生徒個々の「生きる力」「進路を切り開く力」の伸長を図る地域と密接に連携した教育活動により、地域社会に貢献できる能力と豊かな人間性を持つ人材を育成し、地域に信頼される高校をめざす。</p> <p>1 生徒が積極的に参加・活動する「わかる授業」を推進し、「スモールステップで学びを支援」し、「確かな学力」を育成する。</p> <p>2 キャリア教育の充実に努めると共に、自立支援コース並びに専門コース等において特色ある教育活動を展開し、主体的に進路実現できる生徒を育成する。</p> <p>3 教育活動全体を通じて、規範意識、人権意識の向上を図るとともに、地域との交流・連携を深め、安全・安心な学校としての信頼感を高めていく。</p>
--

### 2 中期的目標

<p>1 確かな学力の育成と授業改善</p> <p>(1) 生徒の参加・活動量の多い「わかる授業」をめざした授業改善に取り組み、自ら学ぶ生徒を育てる。</p> <p>ア アクティブ・ラーニングを取り入れ、生徒の授業参加と活動量を積極的に増加させ、学びを深める。</p> <p>イ 教員相互の授業見学、他校や中学校の授業見学、授業アンケートを効果的に活用し、授業改善に取り組む。</p> <p>ウ 国際交流事業、英語検定・GTEC等を活用し、国際理解教育を推進する。</p> <p>エ 「阿武野プロジェクト(あぶプロ)～学力充実プロジェクト委員会」を中心として、組織的な授業改善を行い、生徒の学力の充実に努める。さらに新学習指導要領を見据え、カリキュラムマネジメントに取り組む。</p> <p>※ 授業アンケートにおける興味関心、知識技能に係る生徒の満足度(H29:81%、H30:79%、R1:80%)を上昇させ、令和4年度には87%以上にする。</p> <p>※ 平均家庭学習時間を毎年度10分増加させる。</p> <p>※ ICTを活用した授業(H29:3000時間、H30:4500時間、R1:6653時間)を増加させ、令和4年度も5000時間以上を維持する。</p> <p>(2) 学習環境の整備、授業規律の確立を図る。</p> <p>ア 学習環境整備、授業準備、授業規律の指導を徹底し、授業に集中できる環境を整える。</p> <p>2 進路意識の高揚とコース制の充実</p> <p>(1) 進路指導部と学年が協力して、系統的キャリア教育の充実に努め、主体的に進路を選択し実現できる生徒を育てる。</p> <p>ア 総合的な学習の時間(ライフ・プランニング=L P)、LHR(ロングホームルーム)において、系統的・継続的なキャリア教育の充実に努める。</p> <p>※ 進路決定率(H29:86%、H30:93%、R1:94%)を上昇させる。</p> <p>※ 学校紹介就職内定率は100%(H29:100%、H30:100%、R1:100%)を維持する。</p> <p>(2) 「自立支援コース」「スポーツ専門コース」「福祉・保育専門コース」をはじめ、すべての教育課程において、進路実現につながる特色ある教育活動を展開し、望ましい勤労観・職業観、基礎的・汎用的能力を養う。</p> <p>ア コース毎に、生徒の実態や保護者のニーズに応じた教育内容の充実に努め、進路実現に導く。</p> <p>イ コースの特色に応じて多様な教育活動を展開し、地域との交流・連携を深める。</p> <p>3 安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の育成</p> <p>(1) すべての教育活動を通じて安全で安心な学校を作り上げ、規範意識、自尊感情、人権意識の高揚に努める。</p> <p>ア 規範意識の高揚、基本的な生活習慣の確立を図るため、登校時の校門指導を強化し、一貫した生徒指導を行う。</p> <p>イ LP、LHRにおいて、アサーション・トレーニングやメディアリテラシーの取組を含めた人権学習等を計画的に実施し、安全で安心な学校づくり、人権意識の高揚を図る。</p> <p>ウ インクルーシブ教育の理念に基づいた「ともに学び、ともに育つ」教育、並びに地域の学校、諸団体との交流・連携を推進し、社会貢献を体験することで、生徒の規範意識、自尊感情、人権意識を育てる。</p> <p>エ 防災教育、交通安全教育を計画的に継続して行う。</p> <p>※ 遅刻について、前年度比5%の減少を図る。</p> <p>(2) 生徒の自主的活動を支援し自尊感情を育成するとともに、自らを律し他人を思いやる心を育てる。その際には、生徒を「褒めて育てる」「スモールステップで育てる」を意識する。</p> <p>ア 学校行事、生徒会活動の活性化を図る。</p> <p>イ 部活動の活性化を図る。</p> <p>ウ 一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援の充実に努める。</p> <p>※ 部活動加入率(H29:51%、H30:51%、R1:50%)を上昇させ、令和4年度には55%以上にする。</p> <p>4 地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化させる学校力の向上</p> <p>(1) 広報活動を推進する体制を強化し、学校教育活動を活性化させる。</p> <p>ア 中学校訪問、中高連絡会、学校説明会等を計画的、組織的に実施し、地域の信頼感を高める。</p> <p>イ 学校教育活動全般について、適切な情報発信に努め、保護者、地域との信頼関係を高める。</p> <p>(2) 組織的、継続的に学校力の向上を図る。</p>
---

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

### 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成と授業改善	<p>(1) 生徒の参加・活動量の多い「わかる授業」をめざした授業改善に取り組み、自ら学ぶ生徒を育てる。</p> <p>(2) 学習環境の整備、授業規律の確立を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・アクティブ・ラーニング(AL)、ICTを活用した授業づくりを推進し、生徒の主体的・協働的な授業参加と活動量の増加を図る。</p> <p>・各授業の目標、ポイントを明示するとともに、授業の振り返りを行う。</p> <p>・課題・宿題による家庭学習の習慣づけ、確認を行い、授業進行に活用する。</p> <p>イ・教員相互の授業見学の活性化と共に、授業アンケート結果を活用し、授業改善を図る。</p> <p>ウ・国際交流事業(セント高との相互交換留学)や英検受験GTECを通じて英語力と国際感覚を養う。特に今年度は1年2年にスタディサプリを導入し、家庭学習の習慣化と英語力の向上に取り組む。</p> <p>エ・あぶプロの活動を通じ、教材開発、研究授業、研究協議、ICT活用及びAL推進のための校内研修を実施すると共に、新学習指導要領に基づくカリキュラムを策定する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学習環境整備、授業準備、授業規律について、各学年団での指導を一貫して行う。</p> <p>・担当分掌を中心に全教職員で校内美化を推進。</p>	<p>(1) ア イ</p> <p>・興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度を前年度(80%)より向上させる。</p> <p>・平均家庭学習時間を前年度比10分増加させる。</p> <p>・ICTを使用した授業5000時間以上を維持。</p> <p>ウ・国際交流事業の活性化。</p> <p>エ・あぶプロで新カリキュラムを策定する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)における「クラス清掃をきちんとする」の肯定的評価を前年度(66%)より向上させる。</p> <p>・同「私語が少なくしっかり授業を聞く」の肯定評価を前年度(57%)より向上させる。</p>	

## 府立阿武野高等学校

2 進路意識の高揚とコース制の充実	<p>(1)進路指導部と学年が協力して、系統的キャリア教育の充実を図り、主体的に進路を選択し実現できる生徒を育てる。</p> <p>(2)各コースをはじめすべての教育課程において、進路実現につながる特色ある教育活動を展開し、望ましい勤労観・職業観、基礎的・汎用的能力を養う。</p>	<p>(1) ア・3年間で、LP、LHRにおける系統的・継続的なキャリア教育が充実するよう、進路指導部・学年・人権教育担当分掌が協議し、より良いキャリア教育を構築する。 ・進路指導部・教務部・学年団が協力して、補習・講習を実施し、進路実現に導く。 ・1年次は自尊感情の育成とともに、LP「素敵な大人インタビュー」等を通して将来の職業生活についての意識を高める。全員の3者面談を実施し、進路決定や職業を意識したコース選択、科目選択を徹底する。 ・2年次は進路体験学習等のキャリア教育、個人面談により、適切な科目選択、卒業後の進路目標の確定に導く。 ・3年次は進路別対策講座を実施するとともに、担任・進路によるきめ細かな進路相談を行い、進路希望実現100%をめざす。</p> <p>(2) ア・専門コースや選択科目が生徒の進路に結びつくよう、教育内容の充実を図る。 イ・地域諸団体との交流・連携を推進し、進路意識の高揚を図る。</p>	<p>(1) ア・同「進路や職業について学ぶ機会がある」の肯定的評価を前年度(86%)より向上させる。 ・2年生の進路目標確定95%以上。 ・卒業時進路決定率を前年度(94%)より向上させる。 ・学校紹介就職内定率100%。</p> <p>(2) ア・同「専門コースの授業に満足」の肯定的評価を前年度(82%)より向上させる。 イ・同「地域の方から学ぶ機会がある」の肯定的評価を前年度(76%)より向上させる。</p>	
3 安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の育成	<p>(1)すべての教育活動を通じて安全で安心な学校を作り上げ、規範意識、自尊感情、人権意識の高揚に努める。</p> <p>(2)生徒の自主的活動を支援し自尊感情を育成すると共に、自らを律し他人を思いやる心を育てる。</p>	<p>(1) ア・全教職員が協力して登校時校門指導を行い、遅刻、頭髪、制服の指導を強化するとともに、挨拶ができる生徒を育てる。 ・生徒一人ひとりが「阿武野高生の代表」であるという自覚を持ち、責任ある行動、言葉遣いができるよう一貫した生徒指導を行う。 ・カウンセリングマインドを持った生徒指導を推進する。 イ・1年次に地域交流による「障がい理解学習」を行う等、LP、LHRでアサーション・トレーニングやメディアリテラシーの取組を含めた人権学習等を計画的に実施し、安全で安心な学校づくり、人権意識の高揚を図る。 ウ・2年次に社会貢献活動「あぶねっと」を行う等地域交流を推進し、学校教育全般を通じて生徒の規範意識、自尊感情、人権意識を育てる。 エ・防災教育を計画的に行う。 ・自転車運転ルールの順守、マナーの向上について、交通安全テスト等を活用し、定期的な注意喚起を行う。</p> <p>(2) ア・学校行事、生徒会活動の活性化を図る。 イ・部活動の活性化を図る。 ウ・各学年、相談室委員会、配慮特別委員会が情報を共有し、SC(スクールカウンセラー)、SSW(スクールソーシャルワーカー)、関係機関との連携を推進して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援体制を維持する。</p>	<p>(1) ア・年間延べ遅刻数3000人以下。(前年度3762人) ・同(教職員)「カウンセリングマインドのある生徒指導の実施」の肯定的評価を前年度(86%)より向上させる。 イウ ・同(生徒)「人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定的評価を前年度(87%)より向上させる。 ・同「学校へ行くのが楽しい」の肯定的評価を前年度(72%)より向上させる。 エ・防災教育、交通安全教育の各学期実施。交通安全テストの全員合格。</p> <p>(2) ア・同「学校行事満足度」の肯定的評価を前年度(74%)より向上させる。 イ・部活動加入率を前年度(50%)より向上させる。 ・生徒会や部活動による地域交流を前年度(18回)より増やす。 ウ・「個別の教育支援計画」の作成と適切な支援。</p>	
4 地域の信頼感を高め、学校力の向上	<p>(1)広報活動を推進する体制を強化し、学校教育活動を活性化させる。</p> <p>(2)組織的、継続的に学校力の向上を図る。</p>	<p>(1) ア・中学校訪問、中高連絡会、学校説明会等を計画的、組織的に実施する。 イ・学校紹介スライド、3年間の学び・みえるプラン、広報誌(ABULIFE)を作成すると共に、校内のデジタルサイネージを推進し、教育活動の効果的な情報発信に努める。 ・文書、保護者メール、ホームページ等を使って保護者との連絡をより密接に行い、学校との信頼関係を向上させる。</p> <p>(2) ・日常的なOJTの推進に努め、経験年数の少ない教職員の育成体制の充実を図る。 ・府教育センターや各研究団体等の研修を活用し、伝達研修の充実を図る。 ・地域の府立学校とも連携し、多様な課題に対応するための職員研修を計画的に実施する。 ・OJTの充実やICTの導入によって業務の効率化を進め、ストレスチェック制度の有効活用もを行い、教職員の負担感軽減を図る。</p>	<p>(1) ア・学校説明会等の計画的、組織的実施6回以上。 イ・HPをより見やすく改善する。 ・同(保護者)「教育情報提供満足度」の肯定的評価を前年度(74%)より向上させる。</p> <p>(2) ・伝達研修を含む職員研修の実施12回以上。 ・同(教職員)「経験年数の少ない教職員をフォローする体制」の肯定的評価を前年度(82%)より向上させる。 ・ストレスチェック結果の総合健康リスクが事業場全体より下位。</p>	